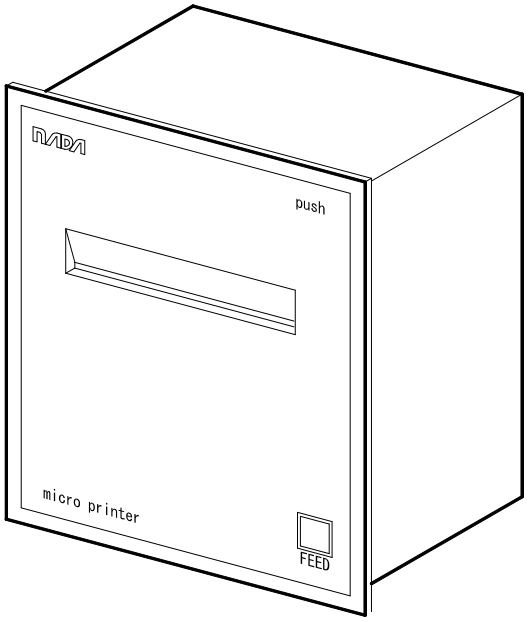
時計付マイクロプリンタ

ＣＰ／ＣＣＰ－１９２Ｇ

操 作 説 明 書

ＲＥＶ．１．４



この度は、時計付マイクロプリンタをお買い上げいただき、誠に有難うございました。
正しくご使用いただくために、この操作説明書をよくお読みのうえ、末永くご愛用くださるようお願い申し上げます。お読みになった後は、大切に保管してください。

ナダ電子株式会社

技２Ｓ－０６０８２３

安全上のご注意

※ ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
　又、お読みになったあとは 本製品の近くなど いつでも見られる場所に必ず保管して下さい。

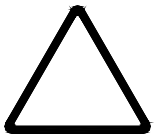
この「安全上のご注意」では、製品を正しくお使い頂き、あなたや他人の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな注意事項を絵表示で示します。

注意事項は、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を危害や損害の程度によって「**警告**」、「**注意**」の２つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守り下さい。
その表示と意味は次の様になっています。
内容をよくご理解の上、本文をお読み下さい。

☆ 危害・損害の程度とその表示

警告	この表示を無視して 誤った取扱いをしますと、人が死亡 又は重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して 誤った取扱いをしますと、人が傷害を負う可能性が想定される内容 及び 物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

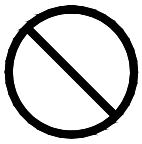
絵表示の例



この記号は一般的な注意、警告、危険の通告に使用します。
図の中に具体的な注意内容が描かれています。
（例）

：一般的な注意事項

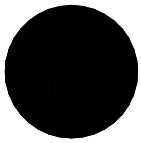
：感電注意



この記号は一般的なしてはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。
図の中に具体的な禁止内容が描かれているものもあります。
（例）

：分解禁止

：接触禁止



この記号は必ず従っていただく内容であることを告げるものです。
図の中に具体的な指示内容が描かれています。
（例）

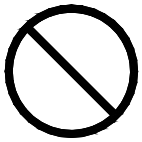
：一般的な行為の指示

：電源プラグ抜け

⚠ 警告

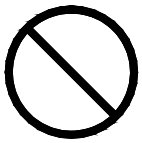
電源プラグは、ほこりが付着していないか確認し、がたつきのない様に刃の根元まで確実に差し込んで下さい。

ほこりが付着したり 接続が不完全な場合は、火災・感電の恐れがあります。
（プラグは根元まで確実に差し込んで下さい。）



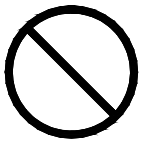
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないで下さい。又、重い物をのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないで下さい。

電源コードが傷んだ時は、販売店に交換をご依頼下さい。そのまま使用しますと火災・感電の恐れがあります。



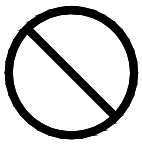
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないで下さい。又、タコ足配線はしないで下さい。

火災・感電の恐れがあります。
（交流１００Ｖ ５０／６０Ｈｚの商用電源コンセントに接続して下さい。）



必ず電源を接続する前にアース接続して下さい。

アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に火災・感電の原因となる恐れがあります。



取り外したカバー、キャップ、ネジ等は小さなお子様が誤って飲むことがないように、又、本装置を包装しているビニール袋は誤って被ることがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いて下さい。

万一の場合は、ただちに医師と相談して下さい。

⚠ 警告

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないで下さい。
感電の恐れがあります。

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい時は使用しないで下さい。
そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。

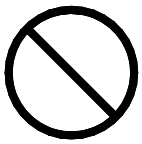
本機を分解・改造しないで下さい。
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、火災・感電の恐れがあります。

本機のキャビネットを外さないで下さい。
内部の点検、修理は販売店にご依頼下さい。
内部には電圧の高い部分や鋭利な部分があり、感電やけがの恐れがあります。

湿気やほこりの多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないで下さい。
火災・感電の原因となる恐れがあります。

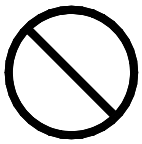
本機の上や近くに薬品や水などの入った容器 又は 金属物を置かないで下さい。
万一、こぼれたり 中に入った場合は、火災・感電の原因となる恐れがあります。
異物（水、液体、金属片など）が中に入った時は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡下さい。
そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。

⚠ 警告



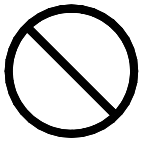
本機の開口部等から内部に金属類や燃えやすい物等の異物を差し込んだり、落としたりしないで下さい。

火災・感電の原因となる恐れがあります。



本装置に水をかけたり、濡らしたりしないで下さい。

火災・感電の原因となる恐れがあります。



ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所、振動や衝撃の多い場所には置かないで下さい。

落ちたり 倒れたりして、けがの原因になることがあります。万一、本機を落としたり キャビネット等を破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。

万一、発熱している、煙が出ている、変な臭いがする等の異常が見つかった場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

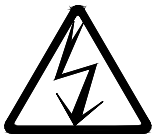
そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡下さい。

お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめ下さい。

機器を落としたり、カバー等を破損した場合は、本装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。その後、販売店にご連絡下さい。

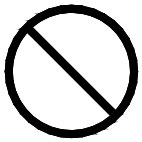
そのまま使用すると、火災・感電の恐れがあります。

⚠ 警告



オプション機器の取り付けや取り外しを行う場合は、本装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行って下さい。

感電の恐れがあります。



オプション機器を接続する場合には、取扱説明書に書かれていない機器は接続しないで下さい。

火災・感電の原因となる恐れがあります。

⚠ 注意

本機を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行って下さい。
又、接続ケーブルなども外して下さい。
作業は足元に十分注意して行って下さい。

コードが傷つき、火災・感電の原因となったり、機器が落ちたり倒れてけがの原因となることがあります。

電源コードは、必ずプラグを持って抜いて下さい。

電源コードを引っ張りますと　コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

通電したまま　本機をカバー等で被わないで下さい。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

直射日光の当たる場所や暖房機の近くなど、高温になる場所に長時間放置しないで下さい。
高温によってカバーなどが加熱、変形、変色、溶解する原因となったり、機器内部が高温になり、火災の原因となることがあります。

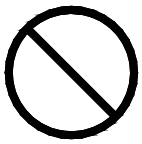
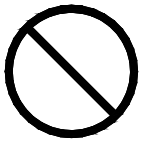
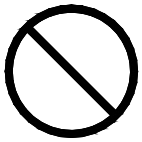
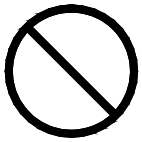
本機の上に重い物を置かないで下さい。
置いた物がバランスをくずして倒れたり落下してけがの原因となることがあります。

調理台や加湿器のそば等　油煙や湯気があたる様な場所に置かないで下さい。
火災・感電の原因となる恐れがあります。

この機器の通風孔をふさがないで下さい。
通風孔をふさぐと　内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
本機を壁ぎわ等に設置する場合は、必ず１０cm 以上離して下さい。

結露状態のまま使用しないで下さい。
火災・感電の原因となることがあります。
室温の低い所から暖かい場所に移動した場合　又　室内の温度を急に上げた場合は、ご使用の前に３０分以上放置して結露状態を取り除いて下さい。

⚠ 注意

	**電源コードを熱器具に近づけないで下さい。** コードの被覆が溶けて、火災・感電の恐れがあります。
	**カードなどの差し込み口に指などを入れないで下さい。** けがの原因となることがあります。
	**記録紙交換等の際に、プリンタのギアに髪の毛やスカーフ等を巻き込まれない様にご注意下さい。** けがの原因となることがあります。
	**プリンタへのヘッド部分には触れない様にご注意下さい。** けが・火傷の原因となることがあります。
	連休等で 長期間本機を使用しない時は安全のため、必ず 電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
	落雷の恐れがあるときは、安全のため 必ず 電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 火災の原因になることがあります。
	重量のある機器を移動する場合は、必ず２人以上で運んで下さい。 腰や手を痛める恐れがあります。

＊＊＊　目　次　＊＊＊

□　使用上の注意 ‥‥‥

口　使用上の注意

○設置について

・本機は振動が生じない様な場所で、ご使用ください。
・高温・多湿　又、直射日光の長時間当たる場所でのご使用は避けてください。
・揮発性有機溶剤・アンモニア・油などの液体贋霧環境　又は　砂や鉄分を含むホコリの多い場所でのご使用は避けてください。
・衝撃や振動の加わる場所や強い電磁界、腐食性ガスの発生する場所でのご使用は避けてください。
・電源ノイズの大きい機器（例えば空調機器）とは離してご使用ください。

○電源について

・電気的なノイズを発生する機器（コンプレッサー等）からはなれたコンセントを使用してください。
・電源コードを濡れた手で取り扱わないでください。

○用紙について

・用紙の保管や扱いには特に注意して、変形や破損の生じる様な置き方，取り扱いはしないでください。
・湿気の多い場所 及び 乾燥しやすい場所に用紙を保管しないでください。

○用紙切れ

・用紙切れになった時は、ＦＥＥＤスイッチのランプが約１秒周期で点滅します。
・印字中に用紙切れになった場合は、新しい用紙をフィードスイッチにより挿入し セットしください。
・フィードスイッチをはなした後に 用紙がセンサーにて検出されると、プリンタは続きのデータを印字します。

○メカについて

・メカ部の主な板金部（プレス部）は メッキ鋼板を使用している為、端面に多少の錆が発生する場合があります。
・メカ部リセット検出器にリードスイッチを使用している為、磁気の影響を受けない様に注意してください。

○印字ヘッドについて

・用紙 及び リボンカセットをプリンタ装置にセットしていない状態で印字しないでください。
空印字しますと印字ヘッドやプラテンが傷みます。
・印字ヘッドが動いている時は、印字ヘッドに触れたり，無理な力を加えたりしないでください。
・印字ヘッドは高温になります。温度が十分に下がるまで、手で触れないでください。
・印字中に電源コードを抜かないでください。

○リボンカセットについて

・リボンカセットは純正品をご使用ください。
・純正品以外のリボンカセットの使用は、リボンカセットの走行不良や印字ヘッドの劣化などの障害を起こす事があります。純正品以外のリボンカセットを使用して 印字ヘッドが損傷した時の責任は負いかねます。
・リボンがたるんだ状態でのご使用は避けてください。

○印字品質について

影響を受ける項目	影響度	説　　明
印字文字数(行数)	大	ﾘﾎﾞﾝの寿命に影響し、印字濃度が薄くなります
印字間隔	大	連続印字の場合は印字濃度が薄くなります
使用環境	大	湿度が低くﾘﾎﾞﾝが乾燥すると印字濃度が薄くなります
印字ﾍｯﾄﾞの個体差	大	個体差により隣り合う文字に印字濃度差が出ます
製品間の個体差	小	個体差により同一条件下でも製品間で濃度差が出ます

○衝撃について

・本機は精密な電子部品でできていますので、落としたり 物を当てたりして衝撃を与えないでください。

○水や異物について

・本機内部に水や液状の物が入ったり、ピン・クリップ等の金属類を落とし込んだりしないでください。本機が故障する可能性があります。
・水や液状の異物が入った場合は、すぐに電源コードを抜いて 購入された販売店までご相談ください。

○汚れについて

・本機の外装部ケース等の汚れは、柔らかい布に水 又は 中性洗剤を少し含ませて軽く拭き取ってください。
・シンナーなどの揮発性の物で拭いたりしますと 筐体ケースの変色などの原因となります。

○故障の場合

・万一 故障が発生した場合は、電源コードを抜いて 購入された販売店までご相談下さい。

○その他の注意

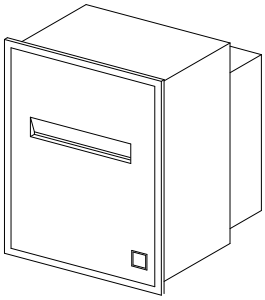
・本書の内容の一部 又は 全部を無断転載することはお断りします。
・本書の内容に関しては 将来予告なしに変更する場合があります。
・本製品がお客様により 本書の内容に従わず不適当に取り扱われたり、また ナダ電子㈱ 及び ナダ電子㈱指定の者以外の第三者により 修理・変更されたことなどに起因して生じた損傷等につきましては、責任を負いかねますので ご了承下さい。

(C)ナダ電子株式会社　1995

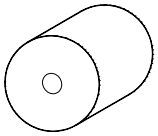
口　付属品の確認

梱包箱より、本体部を取り出して、付属品を確認してください。

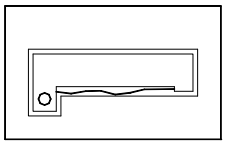
プリンタ本体



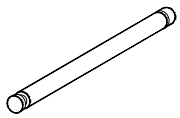
ロール紙：ＮＲ－５８２



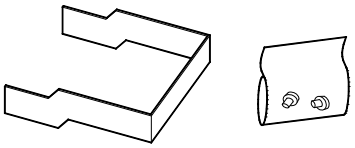
リボンカセット（黒）：ＥＲＣ－２２Ｂ



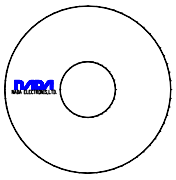
ロールシャフト：Ｓ－１１



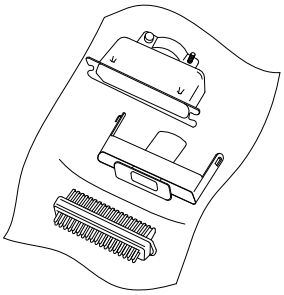
取付金具・ビス



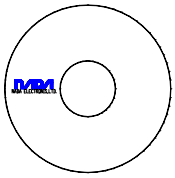
取扱説明書／操作説明書（ＣＤ－ＲＯＭ）



コネクタ　：ＣＰ　　57-30500（DDK）
　　ＣＣＰ　57-30360（DDK）

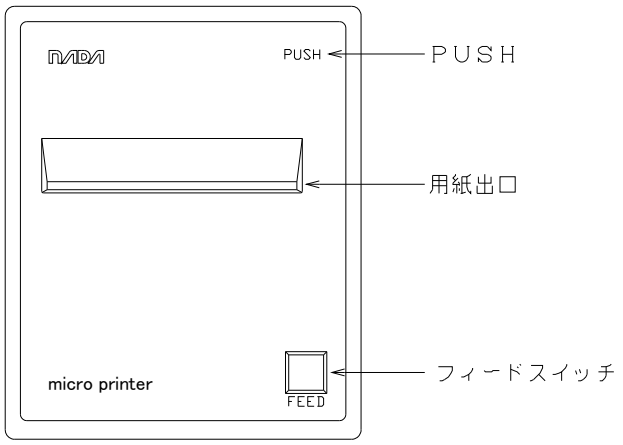


Ｔｏｏｌｋｉｔ（ＣＤ－ＲＯＭ）



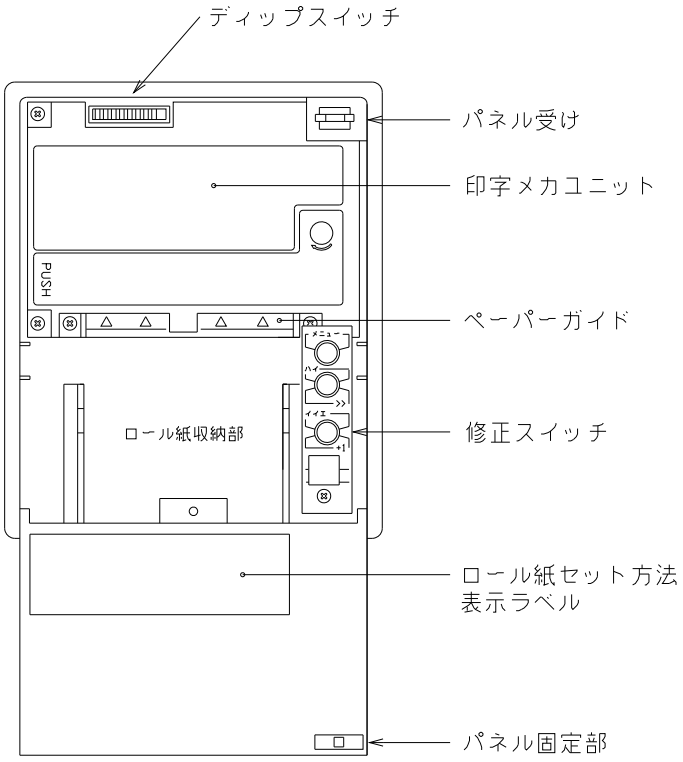
口　各部の名称

1．前面



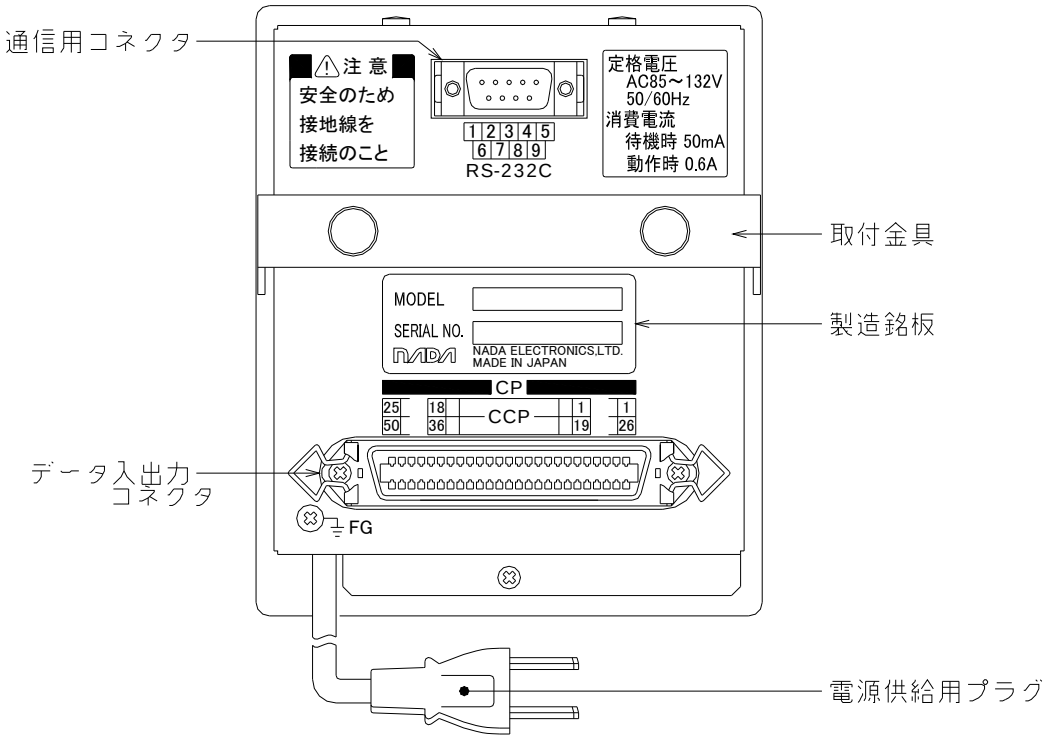
ＰＵＳＨ：ここを押すと 前パネルが開きます。
閉める時も ここを押し込んでください。
フィードスイッチ：スイッチを押すと 紙送りします。
押し続けると 連続紙送りを行います。
押しながら電源を投入するとテスト印字を行います。
テスト印字終了後は電源を再投入してください。

2．内部



ディップスイッチの設定は取扱説明書を参照してください。
（設定状態を記録してください）
内蔵時計の時刻等の修正は［メニュー］により修正法方を印字させるか
□日付、時刻の修正方法を参照してください。

３．背面



取付金具：付属の取付ビスを使用してください。

通信用コネクタ：ＲＳ－２３２C規格の通信用コネクタです。

データ入出力用コネクタ：信号用コネクタです。

ＣＰ－１９２Gの場合は５０ピンコネクタです。

ＣＣＰ－１９２Gの場合は３６ピンコネクタです。

脱着時は必ずプリンタの電源を切ってください。

ＦＧ：安全のため接地線を接続してください。（D種接地）

□　スイッチ内ＬＥＤについて

フィードスイッチに内蔵されているＬＥＤは次の条件で点滅します。

１．ペーパーエンド時

ロール紙がなくなると１秒間隔で点滅します。

ロール紙をセットすると点滅は停止します。

２．メカニズムエラー

印字メカニズムの動きが悪くなると印字、紙送り動作を停止し１００msec 間隔で点滅します。

メカニズムエラーは、電源の再投入で解除されます。メカニズムエラー時は、印字、紙送り動作を行いません。

度々メカニズムエラーが発生するようであれば、修理を必要とします。

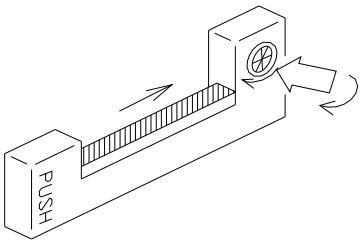
口　リボンカセットのセット方法

1．リボンカセットの挿入は 紙を除去した状態で行ってください。
2．挿入する時は 予め リボンカセットのリボン送りローラを矢印方向に回転して、リボンを
ピンと張っておいてください。（下図１参照）
リボンカセットはプリンタの左右フレームの切欠部に リボンが渡る様に位置決めして、
リボン送りローラをロックすることなく、上から軽く押さえてセットしてください。（下図２参照）
リボン送りローラを矢印方向に回転させながら押さえると セットしやすいです。
尚、挿入する時にリボンが捲れ上がってしまった場合は、セットした状態で 更にリボン
送りローラを回転させるにより リボンを所定の位置まで下げることが出来ます。（下図３参照）
3．取り外す時は、リボンカセットのｐｕｓｈ部を指で押し下げると 反対側が持ち上がるので、
ｐｕｓｈ部を中心として回転させて取り外すことが出来ます。（下図４参照）

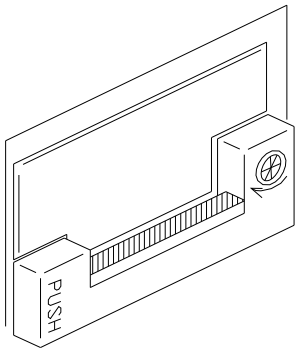
注意

リボンカセットは、純正品（ＥＲＣ－２２Ｂ）を使用してください。
純正品以外を使用されると、本来の性能を発揮出来ない上に故障の原因となることがあります。

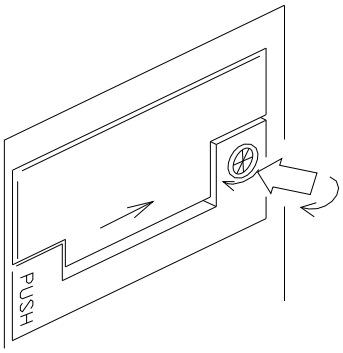
①



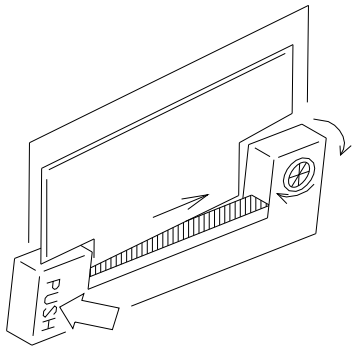
②



③

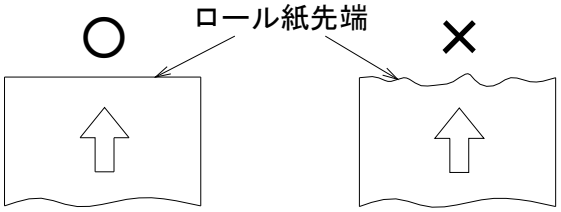


④

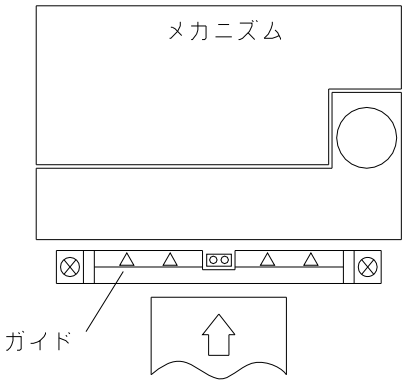


□　ロール紙のセット方法

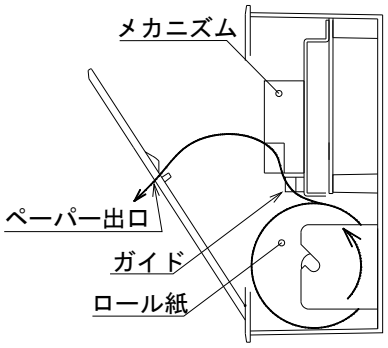
1．ロール紙の紙管にロールシャフトを入れます。
2．ロール紙の巻き方向を間違えない様に注意して ロールシャフトをロールシャフトホルダーにセットします。
3．ロール紙の先端は下図に従って、真っ直ぐにカットしてください。
先端を２つ折りにしてメカニズムに挿入すると 紙詰まりの原因になる為、禁止します。

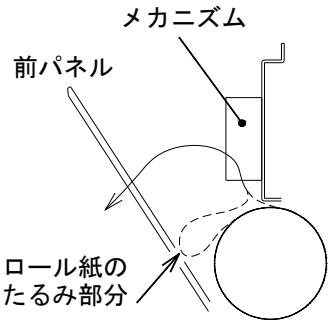


ロール紙先端形状



4．ロール紙をペーパーガイドの△印に沿って挿入します。
5．印字メカニズムからロール紙が１０cm 程度出るまでフィードスイッチを押し続けてください。
6．前パネルあるいはカバーの用紙出口にロール紙を通し、前パネルあるいはカバーをセットします。
7．ｐｕｓｈ部を押して扉をロックしてください。
前パネルを閉じる時にロール紙にたるみがないかを確認してください。
たるみがあると、ロール紙が前パネルとメカニズムに挟まれて印字不良の原因となります。
8．次の行為はメカニズム破損の原因となるので禁止します。
1） 印字、紙送り中に記録紙を引っ張る。
2） 記録紙を紙送り逆方向へ引き抜く。
9．ロール紙のセット直後に印字を開始する場合があります。
印字する条件時にロール紙が無いため印字動作ができず、印字データをそのまま記憶している場合に生じます。
印字すべきデータの印字が終了すると自動的に通常の使用状態になります。





注意　ロール紙は、純正品（ＮＲ－５８２）を使用してください。
純正品以外を使用されると、本来の性能を発揮出来ない上に 故障の原因となることがあります。

□　各種設定方法について（ＣＰ－１９２Ｇ）

１．基本操作

1）［**メニュー**］による選択

次の内容を［**メニュー**］を押すごとに印字します。

＊2006年07月31日13時58分20秒＊

↓

日付、時刻の修正方法を印字する

↓

日付を修正する。

↓

時刻を修正する。

↓

設定値印字。

↓

ｲﾝﾃﾞｯｸｽの有無を設定する。

↓

最大値印字の有無を設定する。

↓

ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ印字を設定。

注意：“インターバル印字を設定”はディップスイッチの設定でSW4をＯＮ、
SW5をＯＦＦにした時のみ印字されます。
取扱説明書　□ディップスイッチの設定 を参照ください。

2）［ **ハイ** ］［**イイエ**］［ 》 ］［ ＋１ ］による設定

［**メニュー**］による選択から［ **ハイ** ］**を**押すことでその項目の設定モードになります。
白黒反転された位置の数値を［ ＋１ ］で変更します。反転位置は［ 》 ］で移動します。
年から月、月から日の選択と項目が変わると印字を行います。
設定値は［**メニュー**］による よろしいですか。 の応答の［ **ハイ** ］で最終決定されます。

3）スイッチを３０秒間操作しなければ設定モードを終了します。

4）スイッチの操作は先端の鋭利なもの（シャープペンシルの先端等）では行わないでください。
故障の原因となります。ボールペン、あるいはシャープペンシルを使用する場合は、後端のノック側で行ってください。

２．日付、時刻の修正

1）具体的な操作

２００６年7月３１日１４時４３分２１秒を、２００６年０８月０４日１４時４３分２１秒に修正する。

①[**メニュー**] を押す。

②[**メニュー**] を押す。

③[**ハイ**] を押すと日付、時刻の修正方法を印字します。
印字を希望しないのであれば[**メニュー**] を押します。

④[**ハイ**] を押して日付、時刻の修正モードに入ります。

⑤反転印字部が修正出来ますので[》] を３度押します。

⑥[＋１] を１回押します。

⑦[》] を押し、０８月を確認する。
[＋１] を１回押す。

⑧[》] を押し、[＋１] を３回押す。

⑨[》] を押し、内容を確認する。
違っていれば[》] と [＋１]を使用して修正します。
合っていれば[**メニュー**] を押します。

⑩再確認し、あっていれば[**ハイ**] を押します。
違ってれば[**イイエ**] で修正モードに戻ります。

⑪時刻の修正は 時刻を修正する。 と印字を行ったときに
[**ハイ**] で時刻の修正モードに入ります。
値の変更は[》] 、[＋１] で行います。

⑫ 修正しました。 が出て修正完了となります。
この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままの状態となります。

⑬スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

⑭修正が完了するまで、内臓時計は歩進しています。

2）修正値の印字について

[》]で項目が変われば印字します。（月の設定から日の設定へ移動等）

3）修正値の範囲について

各項目の[＋１] による修正範囲は次ぎの通りで、分の上桁の場合５の次は０になります。

２ ０ ０６ 年 ０７ 月 ３１ 日 １４ 時 ４３ 分 ２１ 秒

0～9 0～9　0～1 0～9　0～3 0～9　0～2 0～9　0～5 0～9　0～5 0～9

4）修正エラーについて

誤った値を入力した場合には再度修正モードになります。

例えば、１４月や３２日や２６時の入力は可能ですが、最終確認で不適当とみなして再入力を求められますので正しい値を入力してください。

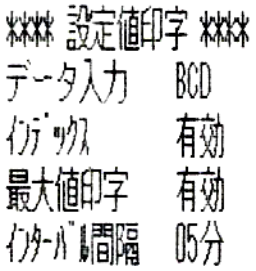
３．設定値印字

現在の設定値の内容が確認できます。

1）具体的な操作

①[**メニュー**] 操作で“設定値印字。”を印字させる。

②[**ハイ**] を押すと各設定値を印字します。



③スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

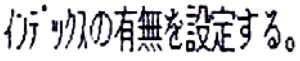
④データ入力の内容は現在の形態を示すのみで [**メニュー**] 操作では変更できません。

４．インデックスの有無を設定する

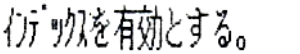
インデックス印字の有効・無効を設定します。

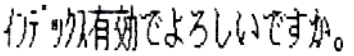
1）具体的な操作

①[**メニュー**]操作で“インデックスの有無を設定する。”を印字させる。



②[**ハイ**]を押して現在の設定を確認する。





③このままでよければ[**ハイ**]を押します。
違う場合は[**イイエ**]を押します。

④[**ハイ**]を押して 修正しました。 が出て設定完了となります。
この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

⑤スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

５．最大値印字の有無を設定する

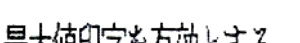
最大値印字の有効・無効を設定します。

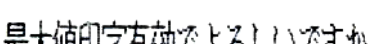
有効とした場合はトータル印字を行った時に続けて、最大値、最小値、平均値の印字を行います。

1）具体的な操作

①[**メニュー**]操作で“最大値印字の有無を設定する。”を印字させる。

②[**ハイ**]を押して現在の設定を確認する。





③このままでよければ[**ハイ**]を押します。
違う場合は[**イイエ**]を押します。

④[**ハイ**]を押して 修正しました。 が出て設定完了となります。
この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

⑤スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

６．インターバル印字を設定

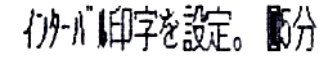
インターバル印字の間隔を設定します。

1）具体的な操作

０５分を１０分に修正します。

①[**メニュー**] 操作で“インターバル印字を設定。”を印字させる。

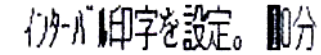
②[**ハイ**] を押して現在の設定を確認する。



③反転印字部が修正出来ますので[＋１] を１度押します。

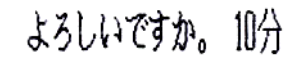
④[》] を押し、[＋１] を5回押します。

⑤[》] を押し、内容を確認する。



違っていれば[》] と [＋１]を使用して修正します。

合っていれば[**メニュー**] を押します。



⑥[**ハイ**]を押して 修正しました。 が出て設定完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

⑦スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

2）修正値の範囲について

各桁の[＋１]による修正範囲は ０ ～ ９ で ９ の次は ０になります。

０１ ～ ９９を設定します。００では印字しません。

3） 修正しました。 の印字を行った場合、ただちに修正モードからインターバル印字のモードになります。(修正モードを中止します)

時間の計測は、内臓時計の１秒の変化をとらえて行っています。

そのためインターバル開始時の最初に最大１秒の誤差が発生する場合があります。

4）インターバル印字の修正方法

次のイ） ロ） ハ） の方法があります。

ロ）ハ）にて停止した場合、再開時は停止時の残り時間後に印字します。

イ）印字間隔を００分にする。

ロ）ディップスイッチ４をＯＦＦ（インターバル印字　無し）にする。

ハ）ディップスイッチ５をＯＮ　（毎正時印字　有り）にする。

□　各種設定方法について（ＣＣＰ－１９２Ｇ）

１．基本操作

1）［メニュー］による選択

次の内容を［メニュー］を押すごとに印字します。

＊2006年07月31日13時58分20秒＊
↓
日付、時刻の修正方法を印字する
↓
日付を修正する。
↓
時刻を修正する。
↓
設定値印字。
↓
使用チャンネルの設定。
↓
ｻﾌﾞﾄｰﾀﾙ印字を設定。
↓
ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾄｰﾀﾙ印字を設定。
↓
ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ印字を設定。

注意：“インターバル印字を設定”はディップスイッチの設定でSW4をＯＮ、
SW5をＯＦＦにした時のみ印字されます。
取扱説明書　□ディップスイッチの設定 を参照ください。

2）［ ハイ ］［イイエ］［ 》 ］［ ＋１ ］による設定

［メニュー］による選択から［ ハイ ］を押すことでその項目の設定モードになります。
白黒反転された位置の数値を［ ＋１ ］で変更します。反転位置は［ 》 ］で移動します。
年から月、月から日の選択と項目が変わると印字を行います。
設定値は［メニュー］による よろしいですか。 の応答の［ ハイ ］で最終決定されます。

3）スイッチを３０秒間操作しなければ設定モードを終了します。

4）スイッチの操作は先端の鋭利なもの（シャープペンシルの先端等）では行わないでください。
故障の原因となります。ボールペン、あるいはシャープペンシルを使用する場合は、後端のノック側で行ってください。

２．日付、時刻の修正

1）具体的な操作

２００６年7月３１日１４時４３分２１秒を、２００６年０８月０４日１４時４３分２１秒に修正する。

①[**メニュー**] を押す。

②[**メニュー**] を押す。

③[**ハイ**] を押すと日付、時刻の修正方法を印字します。
印字を希望しないのであれば[**メニュー**] を押します。

④[**ハイ**] を押して日付、時刻の修正モードに入ります。

⑤反転印字部が修正出来ますので[》] を３度押します。

⑥[＋１] を１回押します。

⑦[》] を押し、０８月を確認する。
[＋１] を１回押す。

⑧[》] を押し、[＋１] を３回押す。

⑨[》] を押し、内容を確認する。
違っていれば[》] と [＋１]を使用して修正します。
合っていれば[**メニュー**] を押します。

⑩再確認し、あっていれば[**ハイ**] を押します。
違ってれば[**イイエ**] で修正モードに戻ります。

⑪時刻の修正は 時刻を修正する。 と印字を行ったときに
[**ハイ**] で時刻の修正モードに入ります。
値の変更は[》] 、[＋１] で行います。

⑫ 修正しました。 が出て修正完了となります。
この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままの状態となります。

⑬スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

⑭修正が完了するまで、内臓時計は歩進しています。

2）修正値の印字について

[》]で項目が変われば印字します。（月の設定から日の設定へ移動等）

3）修正値の範囲について

各項目の[＋１] による修正範囲は次ぎの通りで、分の上桁の場合５の次は０になります。

２ ０ ０６ 年 ０７ 月 ３１ 日 １４ 時 ４３ 分 ２１ 秒

0～9	0～9	0～1	0～9	0～3	0～9	0～2	0～9	0～5	0～9	0～5	0～9

4）修正エラーについて

誤った値を入力した場合には再度修正モードになります。

例えば、１４月や３２日や２６時の入力は可能ですが、最終確認で不適当とみなして再入力を求められますので正しい値を入力してください。

３．設定値印字

現在の設定値の内容が確認できます。

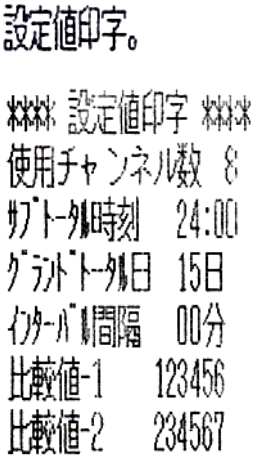
1）具体的な操作

①[**メニュー**] 操作で“設定値印字。”を印字させる。

②[**ハイ**] を押すと各設定値を印字します。

③スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

④比較値の内容は現在の設定値を示すのみで[**メニュー**] 操作では変更できません。



４．使用チャンネルの設定

使用チャンネル数の設定をします。

1）具体的な操作

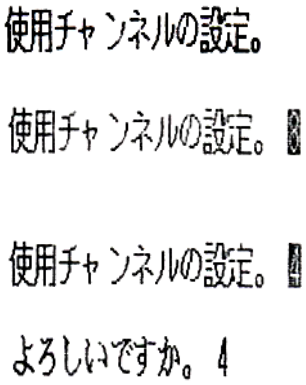
８を４に修正します。

①[**メニュー**] 操作で“使用チャンネルの設定。”を印字させる。

②[**ハイ**] を押して現在の設定を確認する。

③反転印字部が修正出来ますので[＋１] を４度押します。

④[》] を押し、内容を確認する。
違っていれば[＋１]を使用して修正します。
合っていれば[**メニュー**] を押します。



⑤[**ハイ**]を押して 修正しました。 が出て設定完了となります。
この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

⑥スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

2）修正値の範囲について

[＋１]による修正範囲は １ ～ ８ で ８ の次は １になります。

５．サブトータル印字を設定

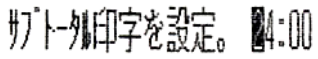
サブトータル印字の時刻を指定します。(設定は時間のみです)
指定された時間に毎正時印字の有りの場合はデータ印字の次に印字されます。
毎正時印字が無しの場合は、サブトータル値のみ印字します。
２４時を設定すると印字しません。

1) 具体的な操作

２４：００ を１２：００に修正します。

①[**メニュー**] 操作で“サブトータル印字を設定。”
を印字させる。

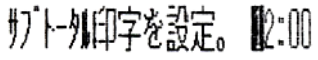
②[**ハイ**] を押して現在の設定を確認する。

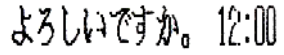


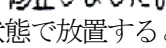
③反転印字部が修正出来ますので[＋１] を２度押します。

④[》] を押し、[＋１] を８回押します。

⑤[》] を押し、内容を確認する。
違っていれば[》] と [＋１]を使用して修正します。
合っていれば[**メニュー**] を押します。





⑥[**ハイ**]を押して  が出て設定完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

⑦スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

2) 修正値の範囲について

[＋１]による修正範囲は次の通りで、時間の上桁の場合 ２ の次は ０ になります。

２４：００
　　└──── ０～９
　└──── ０～２

設定範囲は ００時 ～ ２４時までです。２５時以上を設定すると修正モードに戻ります。

3) 注意

プログラムＶ１．７では旧製品ＣＣＰ－１６０との互換性のため、毎正時印字が無しの場合でもサブトータルの自動印字を実行します。
プログラムＶ１．６までは毎正時印字が無しの場合は、サブトータルの自動印字も実行しません。
プログラムのバージョンはテスト印字で判別できます。

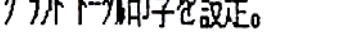
6．グランドトータル印字を設定

グランドトータル印字を行う日を設定します。
印字時刻はサブトータル印字の印字時刻です。
毎月１０日にて月間のデータ集計を行う場合は、１０日に設定します。
印字は１０日のサブトータル印字時刻に行います。
月末の場合は２８日～３１日を設定してください。
この範囲を設定した場合は、毎１日のサブトータル印字時刻に印字します。
００日の場合は印字しません。

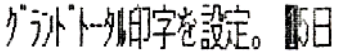
1）具体的な操作

１５日を２０日に修正します。

①[**メニュー**] 操作で“グランドトータル印字を設定。”を印字させる。



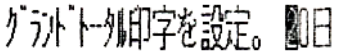
②[**ハイ**] を押して現在の設定を確認する。

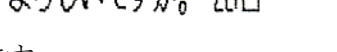


③反転印字部が修正出来ますので[＋１] を１度押します。

④[》] を押し、[＋１] を5回押します。

⑤[》] を押し、内容を確認する。
違っていれば[》] と [＋１]を使用して修正します。
合っていれば[**メニュー**] を押します。





⑥[**ハイ**]を押して 修正しました。 が出て設定完了となります。
この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

⑦スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

2）修正値の範囲について

[＋１]による修正範囲は次の通りで、日の上桁の場合 3 の次は 0 になります。

１５ 日
　└──── 0～9
└──── 0～3

設定範囲は ００日 ～ ３１日までです。３２日以上を設定すると修正モードに戻ります。

3）注意

プログラムＶ１．７では旧製品ＣＣＰ－１６０との互換性のため
　ｲ）印字時刻はサブトータル印字の印字時刻となっています。
　ﾛ）毎正時印字無しでも自動グランドトータル印字を実行する。
となりました。
プログラムＶ１．６までは
　ｲ）印字時刻は零時零分、月末指定以外では翌日の零時零分（10 日に指定すると 11 日の 00：00 に印字）
　ﾛ）毎正時印字無しでは、自動グランドトータル印字を実行しない。
となっています。
プログラムのバージョンはテスト印字で判別できます。

7．インターバル印字を設定

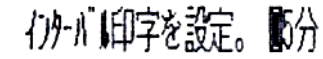
インターバル印字の間隔を設定します。

1）具体的な操作

０５分を１０分に修正します。

①[**メニュー**] 操作で“インターバル印字を設定。”を印字させる。

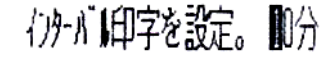
②[**ハイ**] を押して現在の設定を確認する。



③反転印字部が修正出来ますので[＋１] を１度押します。

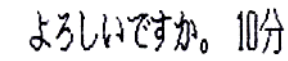
④[》] を押し、[＋１] を5回押します。

⑤[》] を押し、内容を確認する。



違っていれば[》] と [＋１]を使用して修正します。

合っていれば[**メニュー**] を押します。



⑥[**ハイ**]を押して 修正しました。 が出て設定完了となります。

この印字が出ない状態で放置すると修正は完了せず、以前のままとなります。

⑦スイッチの操作を３０秒間行わないと修正モード（キーモード）を中止し、外部からの制御が可能になります。

2）修正値の範囲について

各桁の[＋１]による修正範囲は ０ ～ ９ で ９ の次は ０になります。

０１ ～ ９９を設定します。００では印字しません。

3） 修正しました。 の印字を行った場合、ただちに修正モードからインターバル印字のモードになります。(修正モードを中止します)

時間の計測は、内臓時計の１秒の変化をとらえて行っています。

そのためインターバル開始時の最初に最大１秒の誤差が発生する場合があります。

4）インターバル印字の停止方法

次の イ）ロ）ハ）の方法があります。

ロ）ハ）にて停止した場合、再開時は停止時の残り時間後に印字します。

イ）印字間隔を００分にする。

ロ）ディップスイッチ４をＯＦＦ（インターバル印字　無し）にする。

ハ）ディップスイッチ５をＯＮ　（毎正時印字　有り）にする。

□　手動印字について

通常の使用状態で、[**ハイ**] を押すと印字動作を行います。
各印字データは現在値を示すのみで、集計等には影響を与えません。

ＣＰ－１９２Ｇの場合

インデックス有効　　M 17:03 #### 1234567890 kg

インデックス無効　　M 17:02 1234567890 kg

↑
└── 手動印字を示す M を印字します

ＣＣＰ－１９２Ｇの場合

```
14:23 DATA MANUAL PRINT
ｼﾞｭｳ1     11851     392686 k1
ｹｲ1       2115.1    70084.8 kﾘｯﾄﾙ
ｼﾞｭﾝｽｲ    243.99    8150.62 TON
ｹﾞﾝｽｲ      4.038     133.324 m3
ﾅｶﾞｻ      0.4038     13.3324 ﾒｰﾄﾙ
ﾃﾞﾝﾘｮｸ  0.04038     1.33324 KWH
ｾｲｿﾞｳｽｳ     4038      133324 ｺ
ｼﾞｭｳﾘｮｳ    104.4      3458.5 kg
```

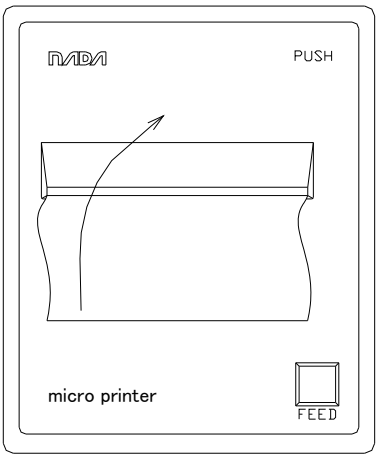
□　日付の自動印字について

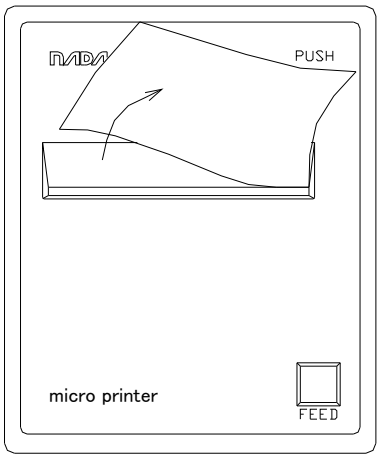
次の条件時に日付を印字します。
１．電源投入時
２．００時００分の日付更新時

ただし、次の条件時には印字しません。
１．メンテナンス時（ＤＩＰ　ＳＷ１が ＯＮ）
２．ＨＥＸダンプ時（テスト印字終了後）
３．ペーパーエンド時

□　ロール紙のカット方法

印字後のロール紙のカットは、ロール紙を手前に引かず 上方へ引いてカットしてください。





□　内蔵時計の停電対策用電池について

１．電池寿命　　充放電５００回または５年の使用

２．充電方法　　ニッカド充電池を使用したフローティング充電方式
（電源が入っている時間が充電時間となります。）

３．注意　　1) 通常プリンタの電源は２４時間の連続通電を前提としており、８時間の使用で毎日電源を切った場合には、放電時間が充電時間より長いために電池を消耗し、使用する時に日付、時刻の修正が必要になる場合があります。

2) 電池が完全に消耗した状態では、通電しても時計が停止したままとなる場合があります。５～６時間の連続通電後に日付、時刻の修正を行ってください。
（電池は４８時間以上の連続通電で完全充電されます。）

４．電池交換　　工場引き取りにて実施しますので、販売元にご連絡ください。

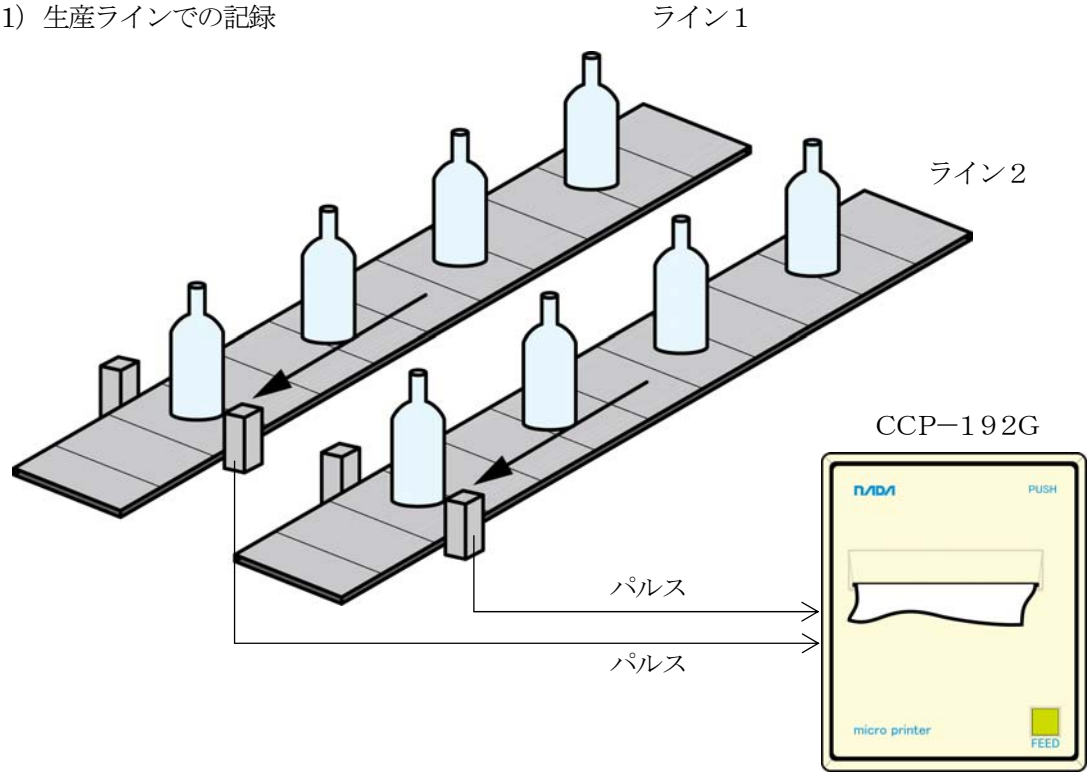
□　消耗品の購入について

○ リボンカセット　：型式　ＥＲＣ－２２Ｂ
購入単位は１０巻です。
○ ロール紙　　：型式　ＮＲ－５８２

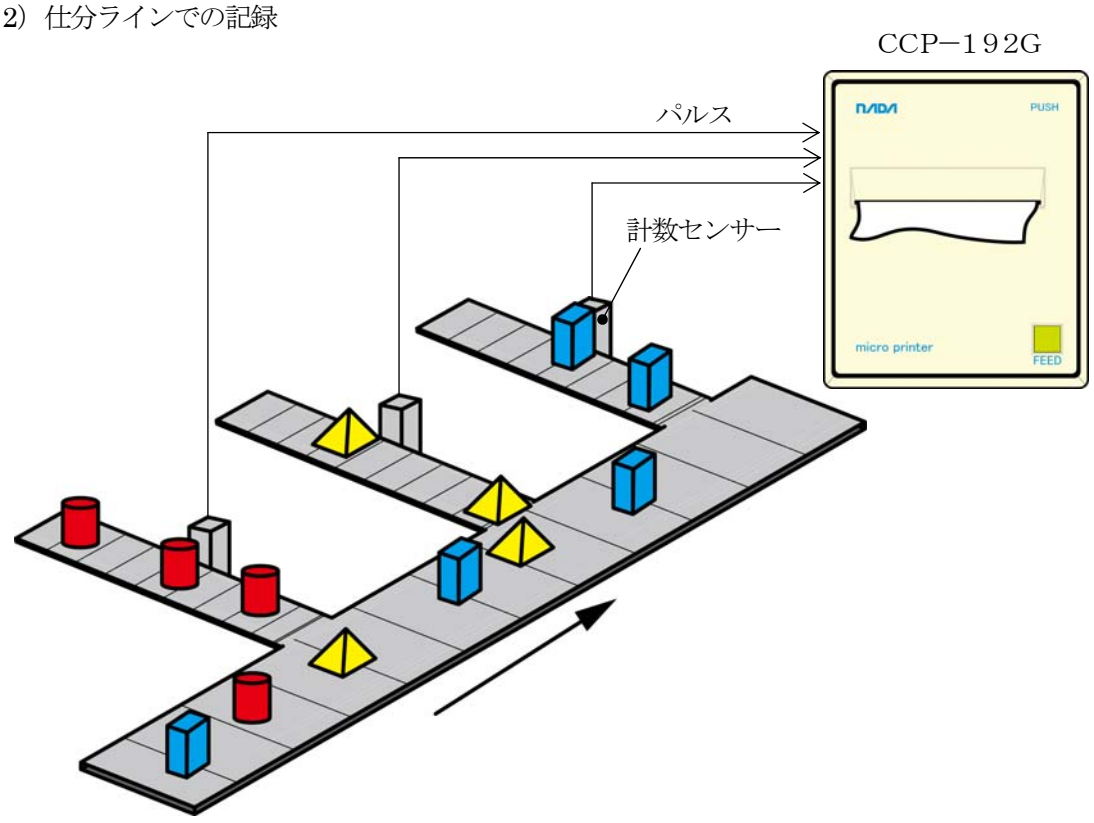
口　使用例

1．生産数の記録

1）生産ラインでの記録

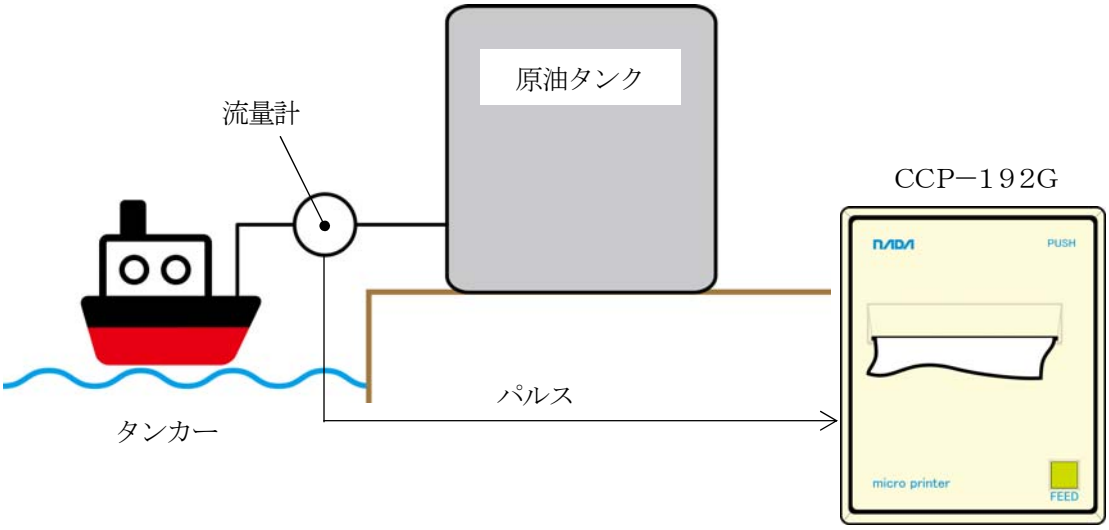


2）仕分ラインでの記録

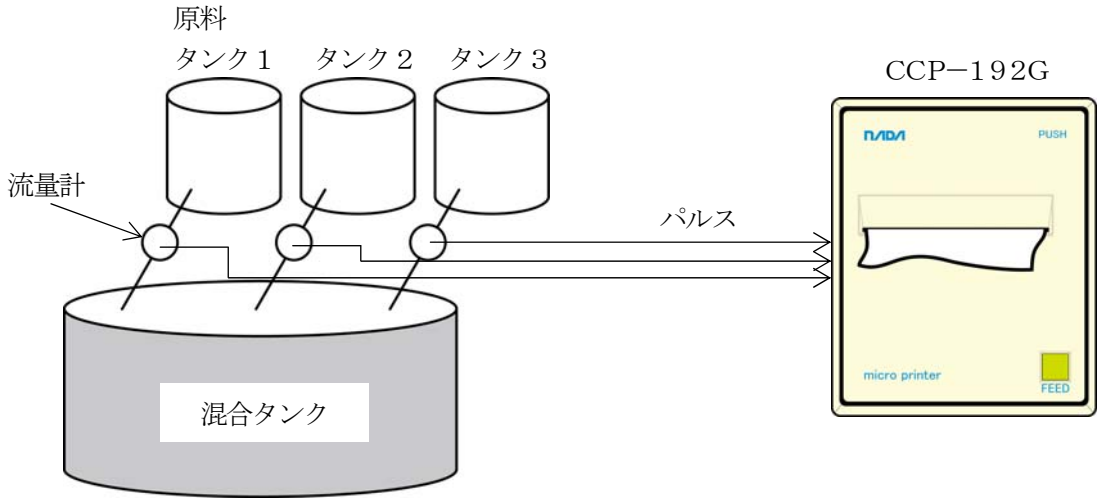


2．流量の記録

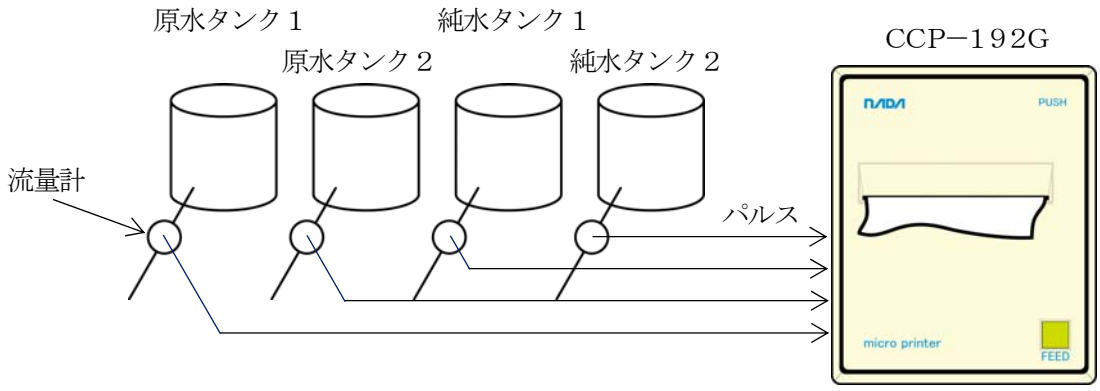
1）原油タンクへの貯蔵



2）混合材料の記録

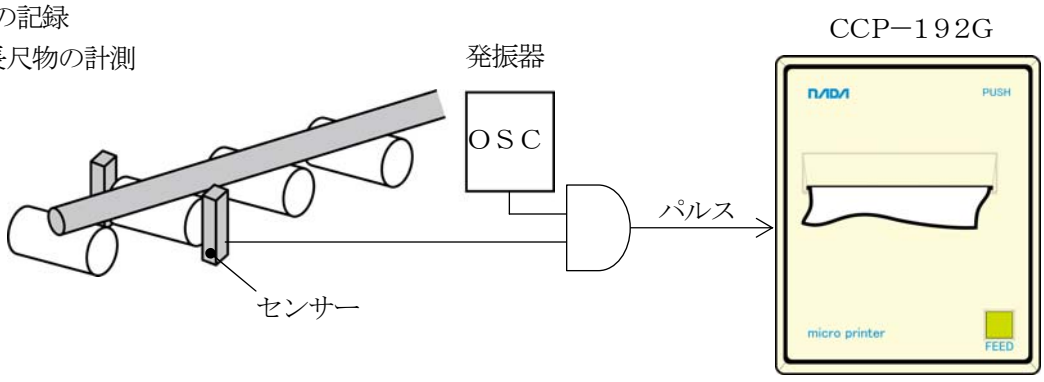


3）１時間毎の使用水量の記録

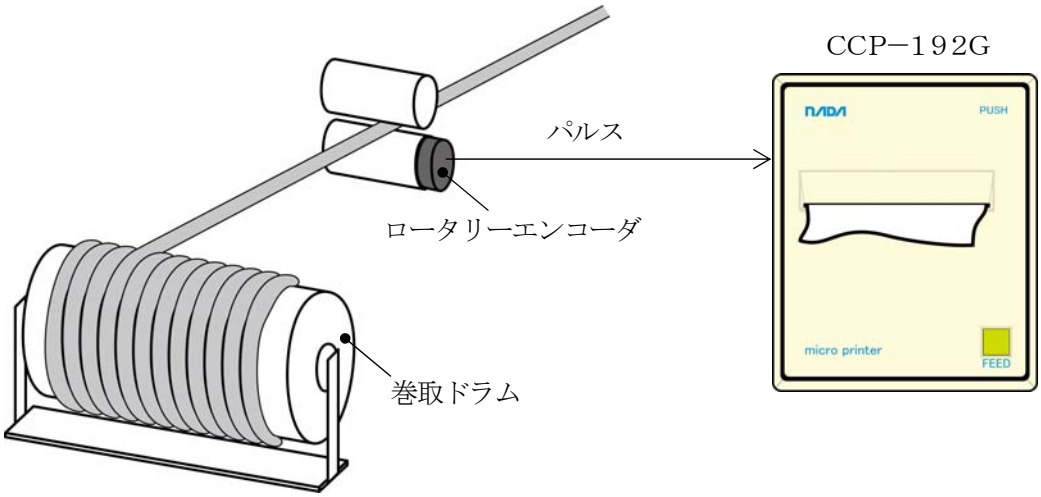


3．測長の記録

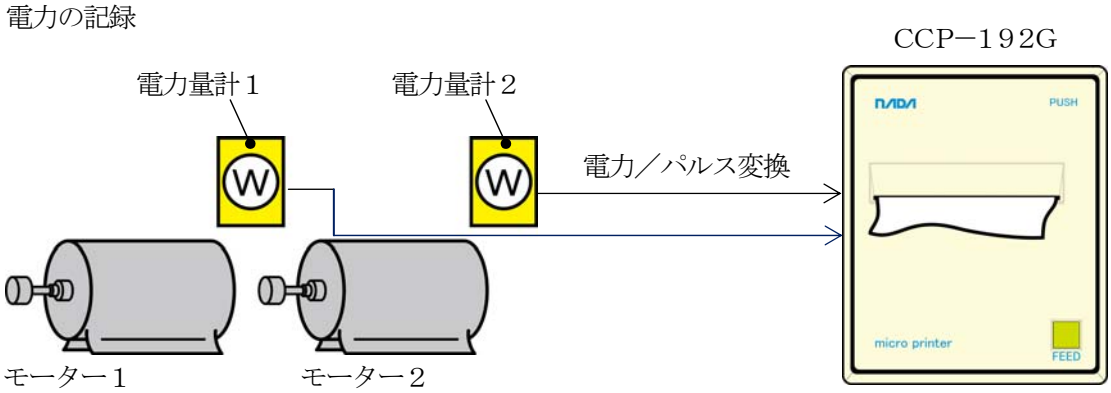
1）長尺物の計測



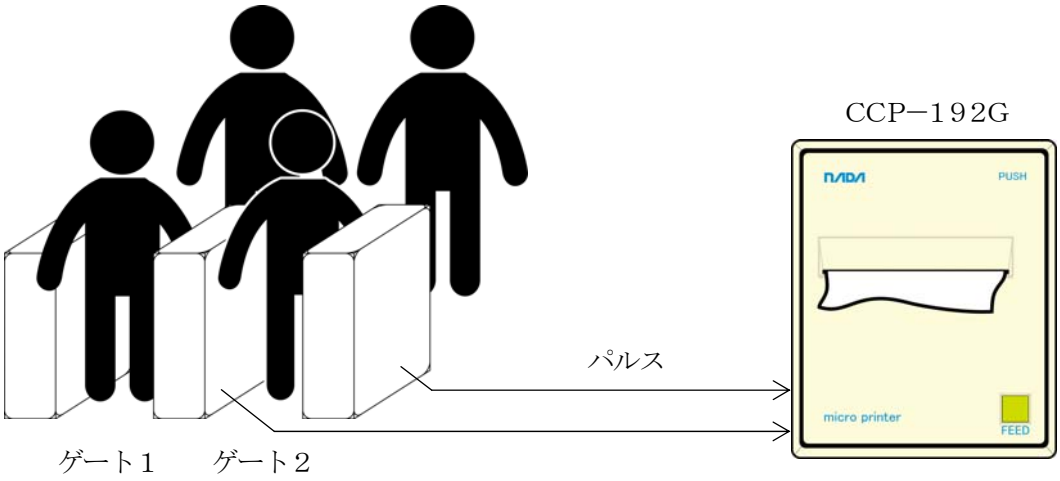
2）電線，ホースの長さ計測



4．電力の記録

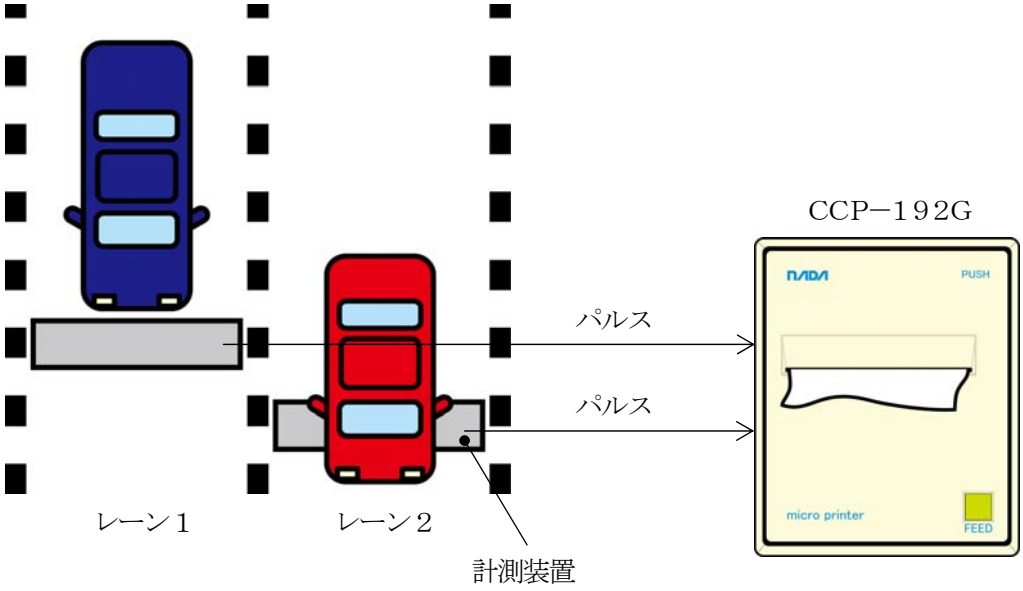


5．入場者数の記録

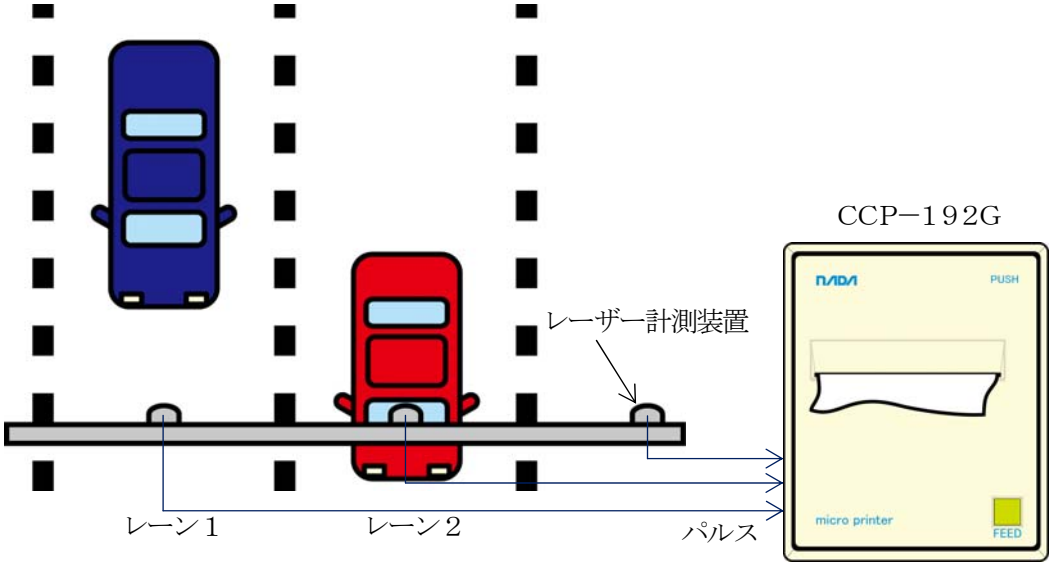


6．通過車両の記録

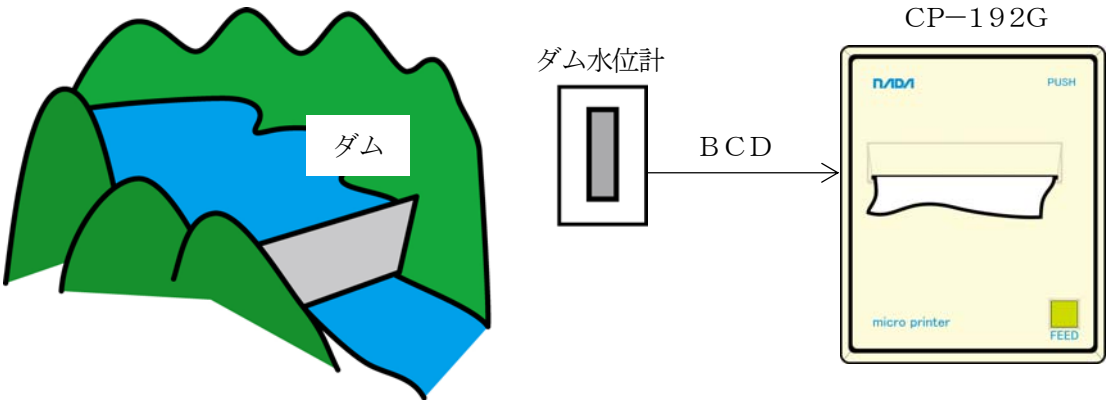
1） 専用計測装置による記録



2） レーザー計測装置による規則

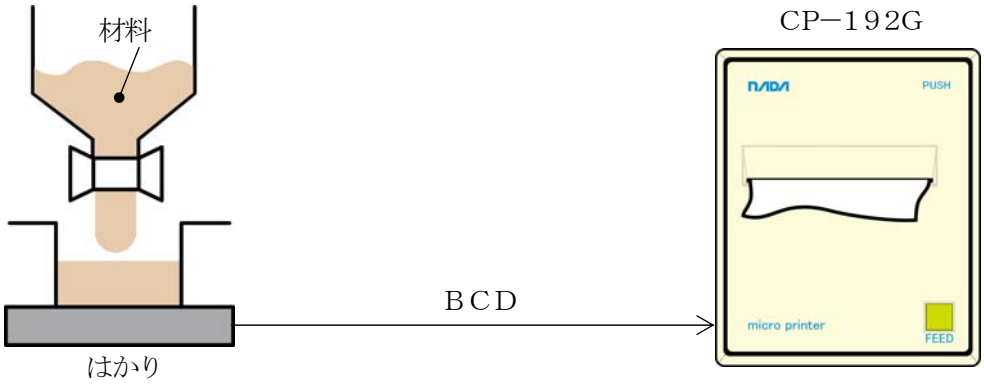


7．ダムの水位の記録

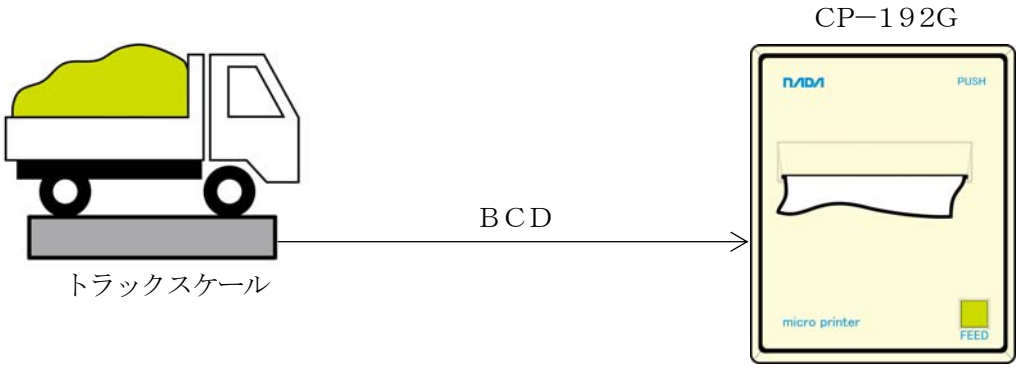


8．重量測定の記録

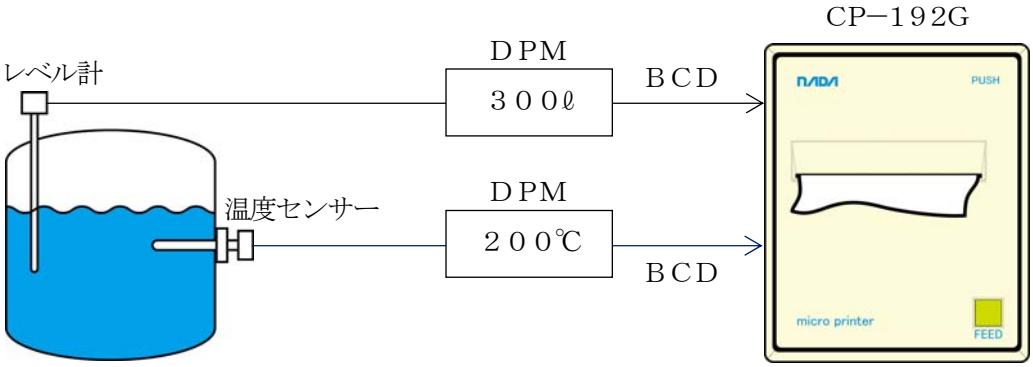
1）材料投入の記録



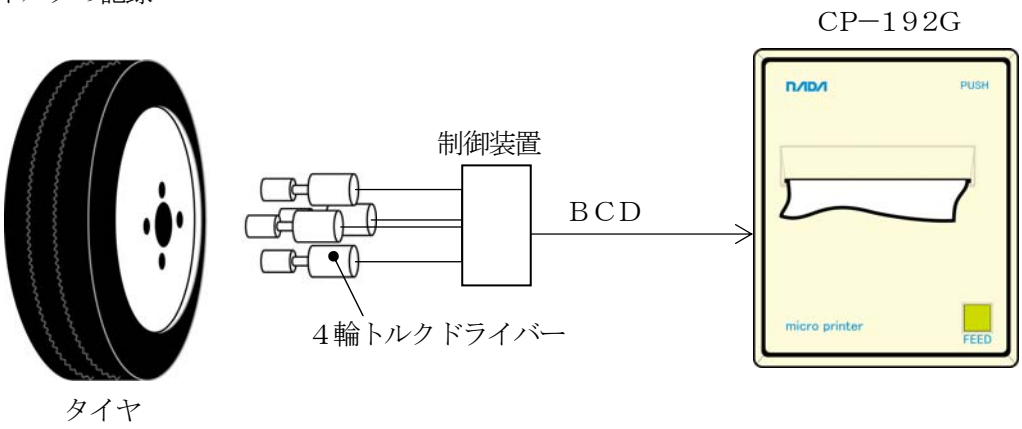
2）トラックスケールによる重量記録



９．液面、温度の記録



１０．締付トルクの記録



NADA

ナダ電子株式会社

本　　社　神戸市東灘区本山南町1丁目4番43号　〒658-0015
TEL(078)413-1111　FAX(078)412-2222

東　京(営)　東京都港区芝4丁目5-11　芝プラザビル　〒108-0014
TEL(03)3455-4230　FAX(03)3455-4249

名古屋(営)　名古屋市名東区上社1-1304　北村第三ビル　〒465-0025
TEL(052)776-1921　FAX(052)775-6080

福　岡(営)　福岡市博多区博多駅南1丁目7-16　オーリン7号ビル　〒812-0016
TEL(092)471-8305　FAX(092)471-8355

仙　台(営)　仙台市宮城野区榴岡5丁目1番15号　〒983-0852
TEL(022)256-0211　FAX(022)292-1610